

澁川市版生涯活躍のまち構想 概要版

■はじめに

急速な少子高齢化とともに、特に生産年齢人口の減少が進行する中で、女性、高齢者、障がいのある方など、一人ひとりの個性と多様性が尊重され、それぞれの希望に応じて役割や生きがいを持って活躍できる地域コミュニティの実現は、地方における人口減少問題の改善、地域の消費需要の喚起や雇用の維持・創出、多世代との協働を通じた地域の活性化などの様々な効果が期待されます。

内閣府では、「第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「生涯活躍のまち」を、あらゆる人々が「居場所」と「役割」をもって「つながり」、生涯を通じて、健康でアクティブに活躍することで、活性化するコミュニティづくりを目指す横断的な施策として決めました。



■構想の策定目的

この構想は、誰でも、一人ひとりの個性と多様性が尊重され、それぞれの希望に応じて能力を発揮することで、居場所と役割を持ってつながり、生涯を通じて、健康でアクティブに活躍できる、活性化したコミュニティを形成するために、澁川市版『生涯活躍のまち構想』を策定するものです。

■構想の目標年次

澁川市立地適正化計画の目標年次と合わせて、おおむね20年後の令和22年のまちの姿を展望します。

■構想の実現による効果

この構想の実現による効果には、次の項目が考えられます。

- 共生社会の推進
- 雇用の創出
- 消費の拡大
- 地域活動の活性化
- 公租公課の増収
- 健康寿命の延伸
- 住まいへの投資の増加
- 移住を含む新たな人の流れ など

■ 構想の基本的な考え方

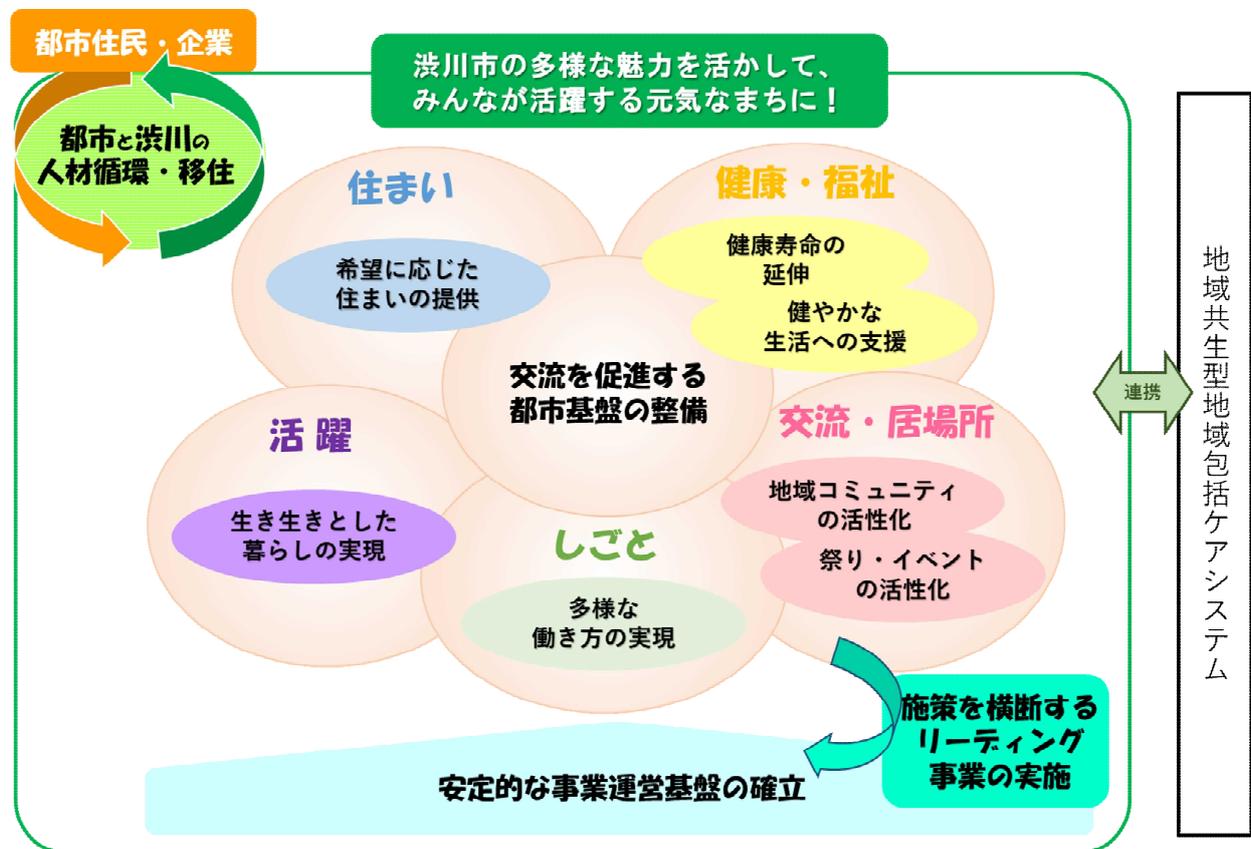
住まい、健康・福祉、活躍、しごと、交流・居場所といった日常の場面を通して、また、人と人の交流を促進するための都市基盤の整備を行い、本市の多様な魅力を活かし、みんなが活躍する元気なまちを目指します。

その際、都市住民や企業といった渋川市外からの人材の受け入れや関係人口の増加、移住を活性化することで、みんなが活躍する場をひろげます。

なお、住まい、健康・福祉、活躍、しごと、交流・居場所、交流を促進する都市基盤整備に関わる施策を横断的に実施するリーディング事業を積極的に展開するとともに、事業運営に対する支援を実施し、将来的に地域での安定した事業基盤の確立を目指します。

また、「生涯活躍のまち」の取り組みは、地域共生型地域包括ケアシステムの理念と通じますので、相互に連携を図ります。

渋川市版 生涯活躍のまち構想 全体イメージ



■形成ビジョン

渋川市版生涯活躍のまちのまちづくりの考え方を示す形成ビジョンは、「渋川市の多様な魅力を活かして、みんなが活躍する元気なまちに！」と設定します。

■形成方針及び形成施策

形成方針（形成ビジョンを実現するための戦略）及び形成施策（形成方針を推進するための手法）は、「住まい」、「健康・福祉」、「活躍」、「しごと」、「交流・居場所」、「交流を促進する都市基盤の整備」ごとに整理します。

形成方針		形成施策
「住まい」		
希望に応じた住まいの提供	空き家バンク等の活用や移住に伴う支援制度の充実を図ります。	○空き家等の活用 ○移住に伴う支援制度の充実
「健康・福祉」		
健康寿命の延伸	食生活に配慮した生活やスポーツ・レクリエーションなど、健康づくり・介護予防の推進を図ります。	○健康意識の向上や健康づくりの推進 ○介護予防に役立つ知識の普及・啓発、地域活動の育成・支援
健やかな生活への支援	介護・生活支援などの継続的な福祉サービスの提供や判断能力が十分でない方の権利の保護を図ります。	○福祉サービスの充実 ●権利擁護の推進
「活躍」		
生き生きとした暮らしの実現	すべての人々が相互に理解を深めようとする取組の推進、生涯にわたり知的好奇心を満たす学びや生きがいの実現、個性や経験をいかした社会参加の促進を図ります。	●心のバリアフリーの推進 ●個性や経験をいかした活躍の場の確保 ○ボランティア活動の情報提供・相談対応
「しごと」		
多様な働き方の実現	様々な就労に向けた支援策の充実、市街地の活性化に資する空き店舗の活用、リモートワークなど時代に即した働き方に対する支援、Uターン農業者など次世代を担う担い手の育成を図ります。	○就業・創業・開業支援制度の充実 ○空き店舗等の活用 ○ニューノーマルな働き方への支援 ○多種多様な農業の担い手の育成・確保
「交流・居場所」		
地域コミュニティの活性化	地域や世代を超え、関係人口も取り込んだ憩いの場や助け合い・ふれあいの機会をつくり、多様な交流の促進を図ります。	○地域における相互扶助活動への支援 ○地域交流・多世代交流事業の実施
祭り・イベントの活性化	既存の祭りやイベントに関係人口を取り込むなどの拡充や見直し、有効に活用されていない土地や公共空間の活用によるイベントの実施を図ります。	○既存の取組の拡充・見直し ○低未利用地や公共空間を活用した実証実験
「交流を促進する都市基盤の整備」		
誰もが気軽に集まれ、利用できるような場の整備や交通ネットワークの再編を行い、交流の場の形成を図ります。		○都市機能の集約化・複合化 ○低未利用地等を活かした交流の場の整備 ○渋川駅前広場の整備 ●ユニバーサルデザインを意識した整備 ○交通ネットワークの再編

●：個々の能力を発揮できる土台づくり

（誰もが活躍できるコミュニティの基盤を整えるための施策）

■施策を横断するリーディング事業

施策を横断するリーディング事業とは、本構想の実現に向け、先導的かつ試行的に行う事業のことを言います。

本構想では、以下の5種類の施策を横断するリーディング事業を設定しています。

(1) 空き家・空き店舗等活用型の事業

空き店舗または空き家を活用した、コミュニティ活性化事業や共生型サービス事業の実施等



(2) 渋川市の中心部における賑わい事業

整備される渋川駅前広場と駅周辺の道路を活用し、未来ビジョン策定、社会実験による持続的な賑わい創出事業と持続的な地域事業の創出、歩いて楽しいまちづくり等



(3) 歴史資産を活用した事業

空き店舗・古民家の未活用資産のリノベーションにより、エリア全体における回遊・周遊の円滑化と活性化、景観の維持・保全等



(4) 自然環境を活用した事業

自然学校や地域団体などを中心に、農業や観光・教育など、地域との親和性の高いテーマを基にした持続的なコミュニティ事業による賑わいと活力の創出等



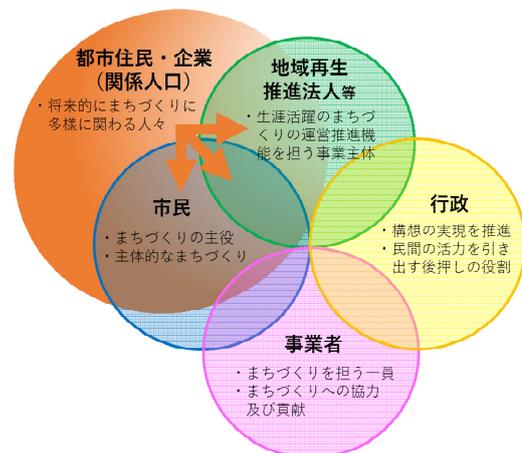
(5) 公共施設等再編に関する事業

健康増進、雇用創出（地元企業の労働力の補填、高齢者の所得の拡大）、多世代交流など公共施設の有効活用を目指した地域課題の解決につながる拠点（コミュニティ）の創出等



■形成推進体制

形成推進体制は、市民、地域再生推進法人等、事業者及び行政、また、都市住民や企業といった関係主体が連携し合い、構想の実現化を図ります。



形成推進体制のイメージ